

地域おこし協力隊が中山間地域にもたらすことについての研究

1230443 経済・マネジメント学群 川谷菜緑

指導教員 金東勲

研究背景

出雲市役所のインターンシップで中山間地域に訪れ、地域おこし協力隊や行政、地域住民に話を聞いたことがきっかけである。インターンシップでは、誰もが地域活性化することに対して前向きで楽しみながら協力していることが伺えた。しかし、全国にはたくさんの地域おこし協力隊が存在しているため、住んでいる状況も気持ちも変わってくるのではないかと感じた。

研究目的

地域おこし協力隊は本当に中山間地域の地域活性化をしているのか。地域活性化の定義とはなんなのか。地域おこし協力隊事業で大事なことはなんだろうか。本稿はこうした問いに答えていくものとする。

研究方法

先行研究で解決されていないこととして、地域おこし協力隊が中山間地域の活性化に貢献していることや、行政や地域住民が地域おこし協力隊にどのように協力していくかなどがあげられる。

本研究では、地域おこし協力隊事業で地域の協力があるのとないのを比較する。また、地域おこし協力隊事業の成功事例と失敗事例の比較をする。

分析結果

行政などが単体で地域活性化に向けて行うことは、本当の意味で地域活性化とは言わない。また、地域が活性化している状態の真逆が中山間地域である。そこで、中山間地域を活性化するためには新しい人材が必要となる。新しい人材の一人が地域おこし協力隊である。

地域おこし協力隊は、任期期間の1年から3年の間で地域活性化に向けて尽力するのではなく、任期終了後も地域に関わりつつ地域で活躍してくれることが前提にある。また地域おこし協力隊は、不安を抱えてスタートするだけでなく、地域や行政との間で地域活性化を進めていかなければならないため、悩みや困難にぶつかり任期途中で退任してしまう地域おこし協力隊も少なくない。

考察・結論

本稿では、地域おこし協力隊が中山間地域の活性化する上で必要不可欠であるとした。また地域おこし協力隊事業は、地域住民や行政の協力があってこそ成り立つものとする。しかし、地域おこし協力隊を受け入れられない地域も存在しているのが事実であるため、そういった場合の対処法を国や行政が提示できるとなお良い。

したがって今後、地域おこし協力隊が中山間地域で活動しやすくなるためには、地域おこし協力隊をたくさんの人に知ってもらう取組みが必要である。